

## 寿命調査 第 14 報 がんおよびがん以外の死亡率データ、1950–2003 年

この文書は寿命調査（LSS）における 1950–2003 年の“がん”および“がん以外の疾患”死亡率の解析に用いられたデータについて説明するものである。これらの解析結果は、*Radiation Research* に掲載された論文 LSS Report 14 に説明されている（Ozasa K, Shimizu Y, Suyama A, Kasagi F, Soda M, Grant EJ, Sakata R, Sugiyama H, Kodama K: Studies of the mortality of atomic bomb survivors, Report 14, 1950–2003: An overview of cancer and noncancer diseases. *Radiat Res* 2012 (March); 177(3):229–43）。

公表されたデータのファイルは以下の通りである。

<b>lss14.csv</b>	“がん”および“がん以外の疾患”死亡率データファイル、1 行目には変数名が入っているコンマ区切りの文書ファイル
<b>lss14.scr</b>	データファイルを読み取り、当該論文で使用されている基礎的モデルを当てはめるための Epicure (AMFIT) コマンドスクリプト
<b>lss14.log</b>	Lss14.scr により作成されたログファイル

データセットは、人年、死亡数、ならびに各被爆者のデータから構築した要約データを詳細な表にしたものである。解析対象者は 86,611 人の被爆者である。各被爆者データは、都市、性、被爆距離、成人健康調査、被爆時年齢、年齢、暦年および結腸線量別に層化されている。LSS Report 14 では、被爆距離、成人健康調査を使用していないが、このデータセットでは、この二つの変数についても層別した。以下に示す最初の 8 個の変数は、表の作成に用いた交差分類を示す指標で、次の 4 個は各セルの調査対象者数、人年数、および被爆時年齢と到達年齢のセル別平均値である。次の 10 個は臓器線量のセル別平均値である。続く 29 個の変数は死因ごとの死亡数を示す。

これらのデータを研究報告書や業績報告書など、何らかの出版物のための解析の基盤として使用する場合には、原稿に謝辞を加えなければなりません。謝辞は以下の通りとします。

用いたデータは広島および長崎の放射線影響研究所（放影研）から入手したものである。放影研は、日本の厚生労働省（厚労省）ならびに米国のエネルギー省（DOE）により資金提供を（後者については、その一部を米国学士院に対する DOE 研究助成金 DE-HS0000031 を通じて）受けている公益法人である。この報告書に示した結論は著者のものであり、必ずしも放影研またはその資金提供機関の判断を反映するものではない。

これらのデータを利用して書いた論文の別刷りを1部、下記宛にお送りください。

〒732-0815  
 広島市南区比治山公園 5-2  
 放射線影響研究所  
 情報技術部 図書資料課 資料係

これらのデータは放影研ホームページより入手可能です。(http://www.rerf.jp/)

詳細説明：

名称	説明およびコード	
<b>city</b>	都市	1: 広島      2: 長崎
<b>sex</b>	性	1: 男性      2: 女性
<b>gd3</b>	被爆距離	1: <3 km      2: 3-10 km
<b>ahs</b>	AHS 集団	0: not AHS    1: AHS (original)    2: AHS (addition)
<b>agexcat</b>	被爆時年齢区分	
	1: 0-5 years old	9: 40-45
	2: 5-10	10: 45-50
	3: 10-15	11: 50-55
	4: 15-20	12: 55-60
	5: 20-25	13: 60-65
	6: 25-30	14: 65-70
	7: 30-35	15: 70+
	8: 35-40	
<b>agecat</b>	到達年齢区分	
	1: 0-5 years old	12: 55-60
	2: 5-10	13: 60-65
	3: 10-15	14: 65-70
	4: 15-20	15: 70-75
	5: 20-25	16: 75-80
	6: 25-30	17: 80-85
	7: 30-35	18: 85-90
	8: 35-40	19: 90-95
	9: 40-45	20: 95-100
	10: 45-50	21: 100+
	11: 50-55	
<b>ctime</b>	暦年区分	
	1: 1950/10/1-1955/12/31	7: 1981/1/1-1985/12/31
	2: 1956/1/1-1960/12/31	8: 1986/1/1-1990/12/31
	3: 1961/1/1-1965/12/31	9: 1991/1/1-1995/12/31
	4: 1966/1/1-1970/12/31	10: 1996/1/1-2000/12/31
	5: 1971/1/1-1975/12/31	11: 2001/1/1-2003/12/31
	6: 1976/1/1-1980/12/31	

<b>dosecat</b>	DS02 加重結腸線量区分 (ガンマ線量 + 中性子線量 × 10) 1: 0-5 mGy 2: 5-20 3: 20-40 4: 40-60 5: 60-80 6: 80-100 7: 100-125 8: 125-150 9: 150-175 10: 175-200 11: 200-250 12: 250-300 13: 300-500 14: 500-750 15: 750-1000 16: 1000-1250 17: 1250-1500 18: 1500-1750 19: 1750-2000 20: 2000-2500 21: 2500-3000 22: 3000+
<b>subjects</b>	観察対象者数 ; はじめの時間区分における人数
<b>pyr</b>	観察人年
<b>agex</b>	人年加重平均被爆時年齢 (歳)
<b>age</b>	人年加重平均到達年齢 (歳)
<b>colon10</b>	DS02 加重結腸線量 (mGy)
<b>stomach10</b>	DS02 加重胃線量 (mGy)
<b>bladder10</b>	DS02 加重膀胱線量 (mGy)
<b>liver10</b>	DS02 加重肝臓線量 (mGy)
<b>pancreas10</b>	DS02 加重膵臓線量 (mGy)
<b>lung10</b>	DS02 加重肺線量 (mGy)
<b>breast10</b>	DS02 加重乳房線量 (mGy)
<b>uterus10</b>	DS02 加重子宮線量 (mGy)
<b>ovary10</b>	DS02 加重卵巣線量 (mGy)
<b>marrow10</b>	DS02 加重骨髓線量 (mGy)

死亡数	死因	9th ICD codes
<b>death</b>	すべての死亡	
<b>solid</b>	すべての固形がん	140–199
<b>esoph</b>	食道がん	150
<b>stomach</b>	胃がん	151
<b>colon</b>	結腸がん	153
<b>rectum</b>	直腸がん	154
<b>liver</b>	肝臓がん	155(0,1,2)
<b>gallbldr</b>	胆嚢がん	156
<b>pancre</b>	膵臓がん	157
<b>othdig</b>	その他の消化器がん	158, 159
<b>lung</b>	肺がん	162
<b>breast</b>	乳がん	174, 175
<b>uterus</b>	子宮がん	179–180, 182
<b>ovary</b>	卵巣がん	183
<b>prostate</b>	前立腺がん	185
<b>bladder</b>	膀胱がん	188
<b>kidney</b>	腎臓がん	189.0
<b>othuri</b>	腎盂、尿管、その他の泌尿器がん	189(1,2,3,4,8,9)
<b>othsolid</b>	その他の固形がん	Others in 140–199
<b>leukemia</b>	白血病	204–208
<b>lymphoma</b>	悪性リンパ腫	200–202
<b>myeloma</b>	多発性骨髄腫	203
<b>blooddis</b>	がん以外の血液疾患	280–289
<b>CVD</b>	循環器疾患	390–459
<b>respiratory</b>	呼吸器疾患	460–519
<b>digestive</b>	消化器疾患	520–579
<b>genitourinary</b>	泌尿生殖器疾患	580–608, 610–629
<b>inf</b>	感染症	001–139
<b>external</b>	外因死	800–999

ICD code 7th、8th、10th については、LSS Report 14 の Appendix を参照してください。